

2021年10月17日 午前礼拝 説教:大木英雄牧師
「隣人を愛したドルカス」

使徒9:31~35

- 31.こうして教会は、ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤの全地にわたり築き上げられて平安を保ち、主を恐れかしこみ、聖霊に励まされて前進し続けたので、信者の数がふえて行った。
- 32.さて、ペテロはあらゆる所を巡回したガルダに住む聖徒たちのところへも下って行った。
- 33.彼はそこで八年の間も床に着いているアイネヤという人に出会った。彼は中風であった。
- 34.ペテロは彼にこう言った。「アイネヤ。イエス・キリストがあなたをいやしてくださるのです。立ち上がりなさい。そして自分で床を整えなさい。」すると彼はただちに立ち上がった。
- 35.ルダとサロンに住む人々はみな、アイネヤを見て、主に立ち返った。

使徒 9:31, こうして教会は、ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤの全地にわたり築き上げられて平安を保ち、主を恐れかしこみ、聖霊に励まされて前進し続けたので、信者の数がふえて行った。

箴言 1:7, 主を恐れることは知識の初めである。愚か者は知恵と訓戒をさげすむ。

「主を恐れる」とは主の権威を恐れるということです。王様を恐れるとは王様の権威を恐れるということです。

王様の権威に従うことです。

ルカ 5:4, 話が終わると、シモンに、「深みに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい。」と言われた。

ルカ 5:5, するとシモンが答えて言った。「先生。私たちは、夜通し働きましたが、何一つとれませんでした。でもおことばどおり、網をおろしてみましよう。」

ペテロがイエス様の言葉に従いたくない理由

- (1) 魚は夜とるので、明るくなって網を下ろしても魚に網が見えてしまうので魚は網から逃げてしまいます。だから明るい時に網を下ろしたくないのです。
- (2) ペテロは夜通し働いて疲れています。疲れているときに、網を下ろしなさいと言われても、網を下ろしたくないのです。
- (3) ペテロは夜通し働きましたが、何一つとれませんでした。又網を下ろしても魚が取れるという期待が持てないのです。

網を下ろせば魚が取れるという期待があるから、網を下ろすのです。網を下ろしても魚が取れるという期待がなければ網を下ろしたくないのです。

主の言葉に従うということは、主の権威に従うということです。

ルカ 5:6, そして、そのとおりにすると、たくさんの魚がはいり、網は破れそうになった。
ルカ 5:7, そこで別の舟にいた仲間の者たちに合図をして、助けに来てくれるように頼んだ。彼らがやって来て、そして魚を両方の舟いっぱい上げたところ、二そうとも沈みそうになった。

神様のみ言葉に従うと神様が働いてくださいます。

今まで出来ないと思っていたことを御言葉「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」を暗唱して御言葉に従ってください。神様が働いてくださることがわかります。

「御霊に励まされ」御言葉に従うと神様が働いてくださるのでとても励まされます。「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」あなたに愛しにくい人がいるとします「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」を暗唱して愛してみてください。神様が働いてくださることがわかります。

使徒 9:32, さて、ペテロはあらゆる所を巡回したが、ルダに住む聖徒たちのところへも下って行った。

使徒 9:33, 彼はそこで、八年の間も床にしているアイネヤという人に出会った。彼は中風であった。

死海の北から地中海に向かって西に向かっていくとルダという町があります。

中風 = 半身不随、腕または足の麻痺

使徒 9:34, ペテロは彼にこう言った。「アイネヤ。イエス・キリストがあなたをいやしてくださるのです。立ち上がりなさい。そして自分で床を整えなさい。」すると彼はただちに立ち上がった。

ペテロには癒しのたまものが与えられていました。美しの門のところに 40 年間置かれていた歩けない人をイエス・キリストの権威で一瞬に癒されました。

使徒 9:35, ルダとサロンに住む人々はみな、アイネヤを見て、主に立ち返った。

アイネヤからイエス・キリストの権威によっていやされた証を聞いて多くの人がイエス様を信じるようになった。

使徒 9:36, ヨッパにタビタ（ギリシヤ語に訳せば、ドルカス）という女の弟子がいた。この女は、多くの良いわざと施しをしていた。

使徒 9:37, ところが、そのころ彼女は病気になって死に、人々はその遺体を洗って、屋上の間に置いた。

使徒 9:38, ルダはヨッパに近かったので、弟子たちは、ペテロがそこにいると聞いて、人をふたり彼のところへ送って、「すぐに来てください。」と頼んだ。

使徒 9:39, そこでペテロは立って、いっしょに出かけた。ペテロが到着すると、彼らは屋上の間に案内した。やもめたちはみな泣きながら、彼のそばに来て、ドルカスがいっしょにいたころ作ってくれた下着や上着の数々を見せるのであった。

ヨッパは死海の最北から西へ行った地中海沿岸の町

ドルカスが亡くなりましたがペテロが近くにいると聞いたので、二人の人をペテロのところに送った。皆はよほどドルカスを愛していたのでしょう。ペテロが来てくれたと聞いたので、みんなペテロのところへ来て、ドルカスが作ってくれた下着や上着をペテロに見せた。

使徒 9:40, ペテロはみなのを外に出し、ひざまずいて祈った。そしてその遺体のほうを向いて、「タビタ。起きなさい。」と言った。すると彼女は目をあけ、ペテロを見て起き上がった。

使徒 9:41, そこで、ペテロは手を貸して彼女を立たせた。そして聖徒たちとやもめたちとを呼んで、生きている彼女を見せた。

死ぬということは心臓が止まり、肺から酸素を細胞に送らないので細胞は死んでしまいます。死んだ細胞を生き返らすことは人間には出来ません。しかしペテロには死人を生き返らせる賜物が与えられていたのです。

動物は死んで皮を残すと言われていますが、人間は死んだ後、何を残すのでしょうか、ドルカスから教えられることは、彼女が送った下着や上着です。

使徒 20:35, このように労苦して弱い者を助けなければならないこと、また、主イエスご自身が、『受けるよりも与えるほうが幸いである。』と言われたみことばを思い出すべきことを、私は、万事につけ、あなたがたに示して来たのです。』

ドルカスが死んだとき、ドルカスがやもめたちに送った下着や上着が残ったのです。

私たちが死んだとき何が残るのでしょうか。私は高等学校で5年間教えました。私の担任でないクラスに、ある男子生徒がいました。私は朝も補修授業をやっていました。私は朝が弱いのでその補習授業に5分遅れたのです。私は遅れてごめんなさいと謝りました。彼は朝の補習授業から私がお金を取っていないのを知っていました。お金を取っていないのに謝った。大木先生は本気だ、やばいと思ったそうです。私の担任のクラスに彼のような生徒はいません。彼は今、立派なクリスチャンになって私にいろいろ教えてくれています。

マタイ 22:39, 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。

を実践すると神様は働いてくださいます。私達が死んだら何が残るのか、その人の生き方が残るのです。

ローマ 5:8, しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

イエス・キリストは私たち罪びとの身代わりとして十字架で死なれました。私たちはイエス・キリストの生き方からいろいろ教えられます。

私はラージャス先生からいろいろ教えられました。ラージャス先生の長男は離婚されましたが、その子供の養育費を全部ラージャス先生が払われました、その長男は 2 番目の人とも離婚されました、今はロンドンに住んでいます。

私がラージャス先生と一緒にウガンダに行ったとき、私はウガンダから日本に帰ってきましたが、ラージャス先生は、ロンドンへ行って長男に会いに行くというのです。私はラージャス先生に先生はどうしてそんなに愛があるのですかと尋ねたら、「だって、イエス様が私を愛してくれたから」と答えられました。私は返す言葉がありませんでした。

それから御代田のキャンプ場をローリング財団場から献品されたとき、キャンプ場を管理するのに毎月 10 万円ぐらいお金がかかります。毎年の年次総会でキャンプ場があまり使われていないのに管理費ばかりかかる、どうしてローリング財団に返さないのか、と叩かれるのです。しかしラージャス先生は日本の BBF を愛して、じっとこらえていたのです。

そして 15 年目にキャンプ場をローリング財団から返してくれないかと言ってきたのです、総会の決議で返すことに決まりました。しかしローリング財団は 4000 万円の譲渡税を日本の国に払わなければならなくなり、4000 万円も払えないから、日本の BBF にくださることになりました、ラージャス先生の BBF を対する愛が勝ったのです。ラージャス先生から「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」を教えられます。

私たちが死んだ後残るものは、どれだけ隣人を愛したかだと思えます。

【説教:大木英雄牧師】